

女性の仕事観に関する調査

— パートタイマーの仕事観 —

昭和60年2月

ポラ文化研究所

<調査>

1. 調査の趣旨

59年度婦人労働白書（労働省）によれば、全女性労働者 1,486万人の2割を超える306万人がパートタイマーで、その増加率は他の職より大きい。

女性の社会進出がいわれてから久しいが、パートという就労形態がその過渡的状况を象徴的に物語っているといえよう。そしてまた、それを通じて女性の仕事観が変っていくに違いない。花のOLやキャリアウーマンとは異なり、家庭と仕事の狭間にあることを実感しつつ働いているパートタイマーの仕事観を探ろうとしたのが本調査である。

2. 調査の概要

- ①調査対象・・・都心勤務のパートタイマー { 事務職 44名
販売職（店員） 48名
東京近郊のパートタイマー 作業職 82名
- ②調査時期・・・昭和59年12月
- ③調査方法・・・アンケート方式

3. 回答者の属性

(年齢構成) (%)

	～24才	25～29	30～34	35～39	40～49	50才～	合計
事務職	—	13.6	6.8	6.8	61.4	11.4	100.0
販売職	2.1	8.3	6.3	12.5	54.2	16.7	100.0
作業職	4.9	—	14.6	35.4	41.5	3.7	100.0
全 体	2.9	5.7	10.3	21.8	50.0	9.2	100.0

(同一生計・同居家族数) (%)

	1人	2人	3人	4人	5人	6人～	N. A	合計
事務職	9.1	9.1	29.5	36.4	11.4	4.5	—	100.0
販売職	8.3	16.7	22.9	35.4	8.3	6.3	2.1	100.0
作業職	1.2	7.3	12.2	41.5	24.4	11.0	2.4	100.0
全 体	5.2	10.3	19.5	38.5	16.7	8.0	1.7	100.0

(世帯の月平均手取り収入) (%)

	～10万円	10～20万 未満	20～30万 未満	30～40万 未満	40万円～	N. A	合計
事務職	2.3	4.5	4.5	36.4	50.0	2.3	100.0
販売職	2.1	4.2	14.6	27.1	50.0	2.1	100.0
作業職	4.9	4.9	24.4	35.4	17.1	13.4	100.0
全 体	3.4	4.6	16.7	33.3	34.5	7.5	100.0

(本人の月平均手取り収入)

(%)

	～10万円	10～20万 未満	20～30万 未満	30～40万 未満	40万円～	N. A	合計
事務職	81.8	11.4	2.3	—	2.3	2.3	100.0
販売職	91.7	6.3	2.1	—	—	—	100.0
作業職	90.2	6.1	—	1.2	—	2.4	100.0
全 体	88.5	7.5	1.1	0.6	0.6	1.7	100.0

4. お問い合わせ先

- ポーラ文化研究所 (渡辺)

<結果の要約>

1. お金があっても働く。しかし、多少の歯切れの悪さも・・・。

働く意欲は強いが、「外に出ること」と「自家にること」を比較させると多少の歯切れの悪さがうかがえる。事務職の働く意欲が一番強い。

2. 多収入よりは時間の自由と収入の安定性を志向。

仕事の選択の最重要要因は多収入ではない。自分の持っているいろいろな希望や条件がほどよく満たされていることが大切で、一つの条件だけを重視して仕事を選択しているのではない。

3. 作業職（パート）の収入安定性志向が一番強い。

事務職、販売職にくらべ、作業職は一段と収入安定性志向が強い。
事務職は全体としては能力発揮志向が強いのだが、中身を見ると「能力発揮強調派」と「どちらともいえない派」の二派にわかれている。

4. 決められた時間働くのは歓迎だが、都合のよい一定時間に。

働く時間の自由を強く望むが、自分の意思一つで全く自由に時間を使って働くというのではない。

5. 仲間がいて楽しい仕事を。

仕事に生き甲斐を求めるが、生き甲斐の内容は、「裁量権がある」といった種類のものではなく、「仲間と楽しく」という感じが強い。
事務職は、上述の通り「働く意欲」が強く、「能力発揮」に一番傾斜しており、「裁量権」を持ちたいと考えている。しかし、一方で仕事への意欲が気位の高さと表裏になっている面がうかがえる。

6. やはり、今の自分の仕事が一番よい。

調査対象者が内勤者であることもあり、内勤志向が強い。販売職は、他職種従事者より、抜きん出て「販売の仕事」を楽しみと考えるなど、自分の仕事に一番愛着を持ち、誇りを持っている。

1. お金があっても働く。しかし、多少の歯切れの悪さも・・・。

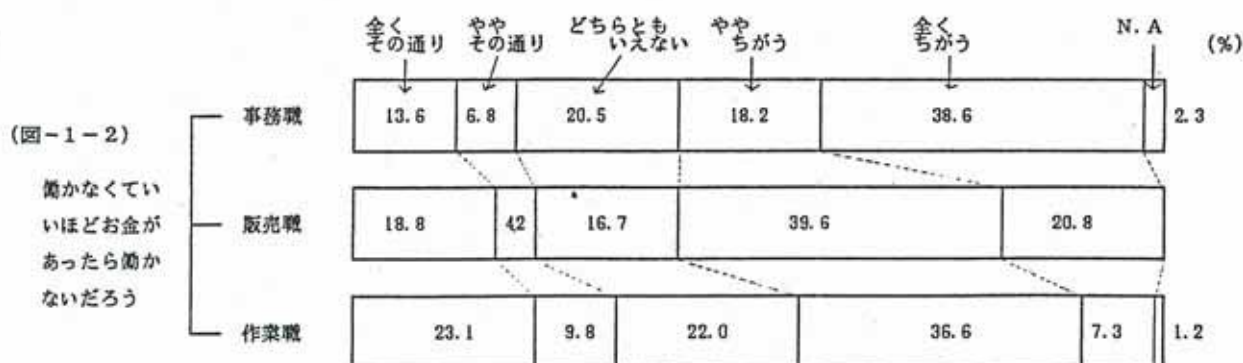
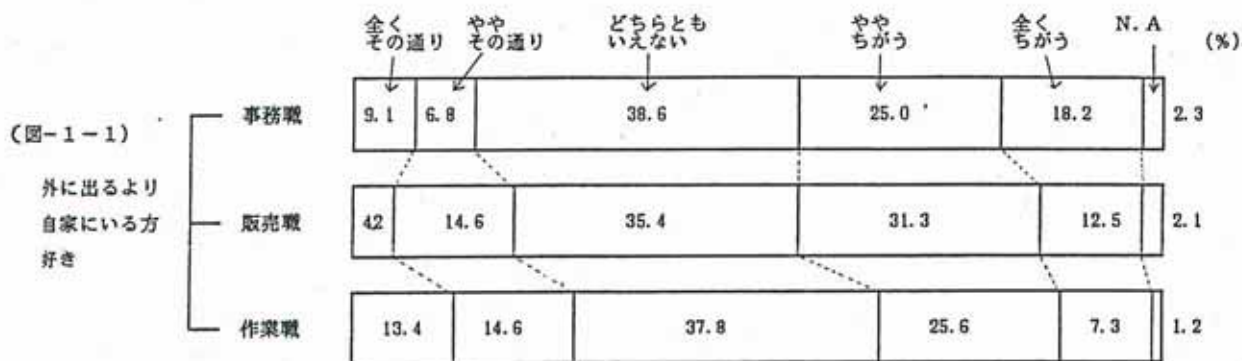
伝統的な男女の役割乃至役割期待像であった「男は外廻り、女は内廻り」という諺は、殆ど死語化しているといってよいのだが、多かれ少かれ「家庭と仕事」の間のさまざまなコンフリクトを味わった経験のあると思われるパートタイマーは、それをどう考えているのだろうか。

結論からいえば、(図-1-1)及び(図-1-2)に見られるように、「外に出るより自家にいる方が好きか」ときくと、そんなことはないのだが、でも、かなりの人は「どちらともいえない」と考えており、「働かなくていいほどお金があったら、働かないだろう」という意見には否定的である。「働く」ということについては、それを当然とする一方、外に出るか自家にいるかについては歯切れの悪さを残しているといえよう。

(図-1-2)で特徴的なのは、

- ・「お金があったら働かない」という人は「ややそう思う」という弱い肯定でなく、「全くその通り」というはっきりした肯定が多いこと。
- ・販売職、作業職と異なり、事務職は「お金があっても働く」という意欲が一段と強いこと。

の2点である。



2. 多収入よりは時間の自由と収入の安定性を志向。

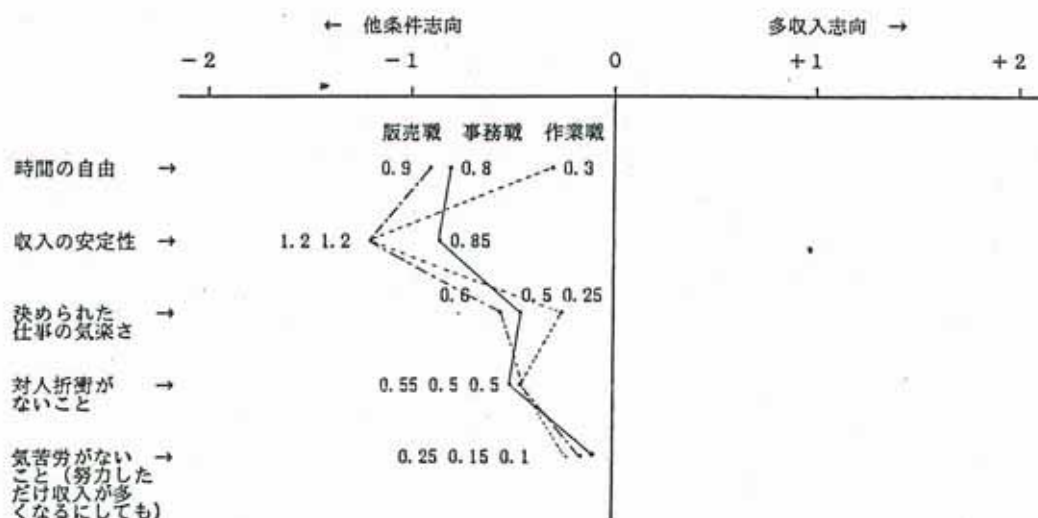
仕事を選ぶ場合、「収入の多寡」が他のいろいろな条件に対してどのような位置付けになっているかをみたのが（図-2-1）である。

これによると、設定したいずれもの条件の方が「収入が多くなること」より重視されていることがわかる。

とりわけ、「時間の自由（但し、作業職は別）」と「収入の安定性」を望む傾向が強い。決められた仕事を気楽に、対人折衝とか気苦労も余りなく、収入はほどほどで安定性があり、時間も自由になるというのが望ましく、正にパートの仕事の性格がはっきりと反映している。いいかえると現在の自分を肯定している意見ともいえるが、前掲の通り、そういう仕事によって得られる収入額は、月平均10万円未満（手取り）なのである。

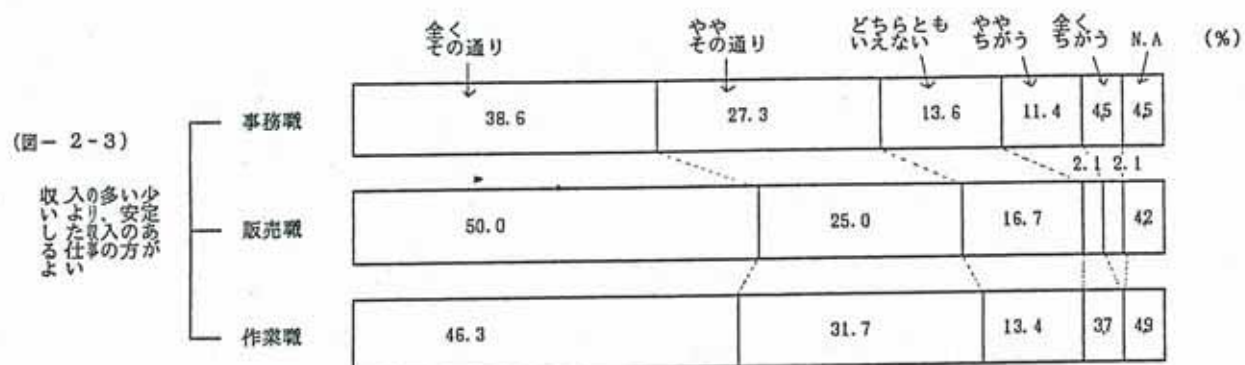
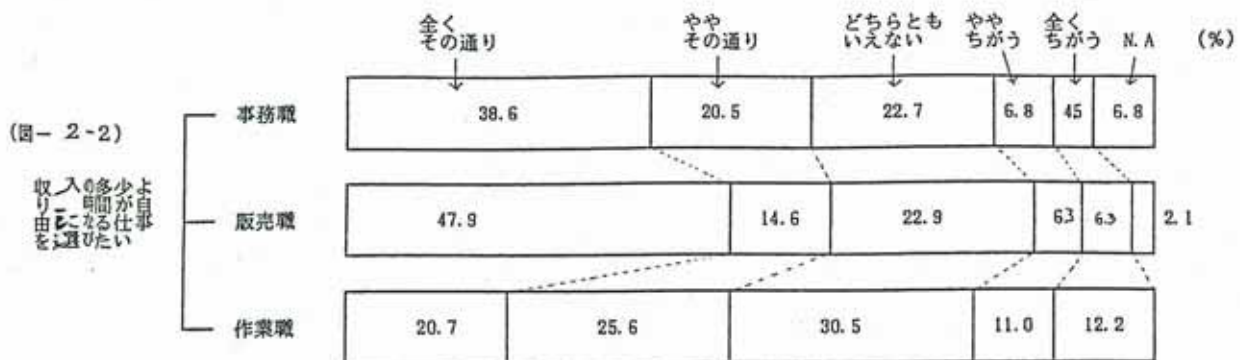
（図-2-1）

仕事を選ぶ場合、「収入の多寡」はどの程度のウェイトを持っているか



ところで、（図-2-1）で志向の強かった「時間の自由」と「収入の安定性」についての結果の詳細を見たのが（図-2-2）及び（図-2-3）である。

「時間の自由」について、作業職は事務職や販売職とは異なった反応を示しているが、全体的に言えば、いずれにせよ、収入の多少よりは時間の自由の方にウェイトを置いていることは確かである。



以上から、仕事の選択に当っては、自分の持っているいろいろな希望や条件がほどよく満たされていることが大切で、一つの条件だけを重視して仕事を選択するということではないことがうかがえる。それぞれの条件がそれぞれに重みをもっているといってもよい。

3. 作業職（パート）の収入安定性志向が一番強い。

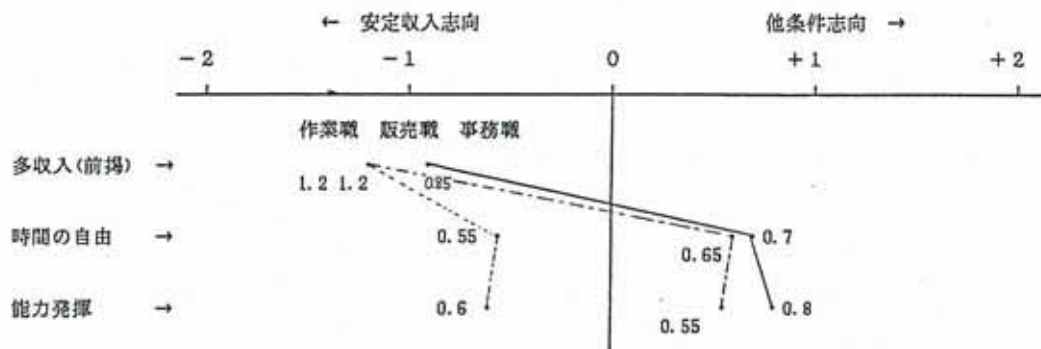
前項で収入の安定性志向がどのグループにおいても一番強いところから、これを軸に他の条件との比較をしたのが（図-3-1）である。

この結果については、

- ・事務職及び販売職と作業職とは全く異なった反応を見せている。つまり、作業職は、時間の自由より収入の安定性を、また、能力発揮よりも収入の安定性を求める傾向にある。それは実際の勤務時間の差、家計における自分の収入のウェイトの差、都心勤務と近郊勤務との差、期待志向か現実志向かの差が入り交じっての結果であろう。
 - ・能力発揮については、事務職の志向が一番強い。
- などが指摘できる。

（図-3-1）

仕事を選ぶ場合、「収入の安定性」はどの程度のウェイトを持っているか

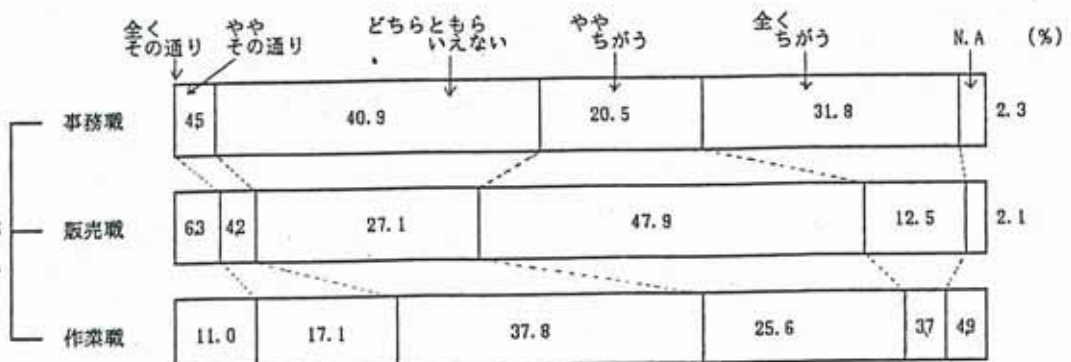


以上のうち、「能力発揮」についての結果の詳細を見たのが、（図-3-2）である。

これによると、「自分の能力が生きなくても、収入が安定してさえすればいい」という意見について、販売職は「ややちがう」という答に山があり、作業職は「どちらともいえない」という答に山があるのに対し、事務職には「どちらともいえない」と「全くちがう」の二つの山がある。上述の通り、全体として見れば事務職の能力発揮志向が一番強いのだが、その中身を見ると、「能力発揮強調派」と「どちらともいえない派」の二派があることがわかる。

（図-3-2）

自分の能力が生きなくても、収入が安定してさえすればいい



4. 決められた時間働くのは歓迎だが、都合のよい一定時間に。

「収入の安定性」と並んで「時間の自由」が望まれているのだが、(図-4-1) 及 (図-4-2) に見られるように、

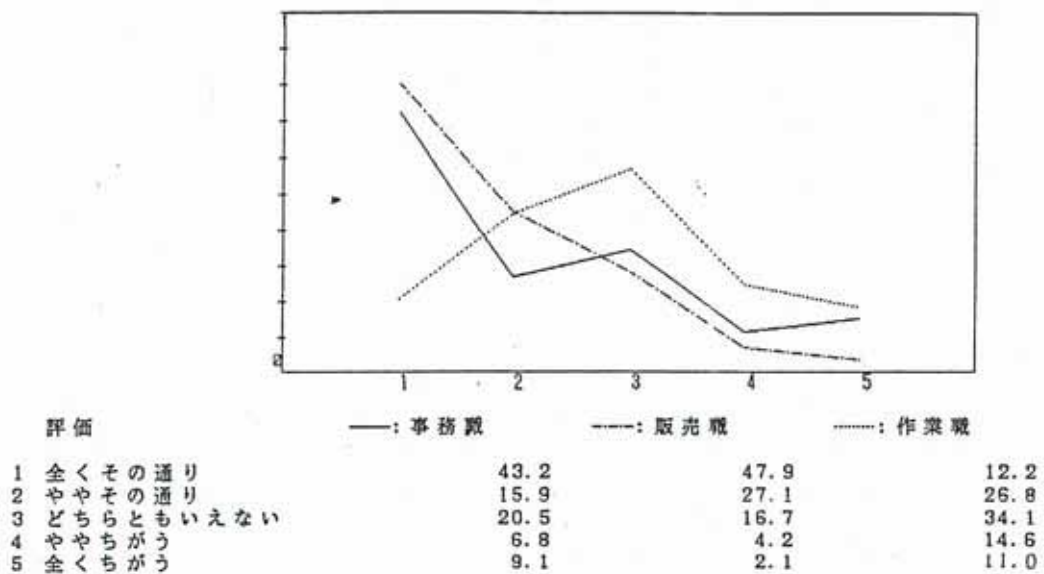
都合のよい一定時間働く仕事がいい

決められた時間働く仕事は嫌いではない

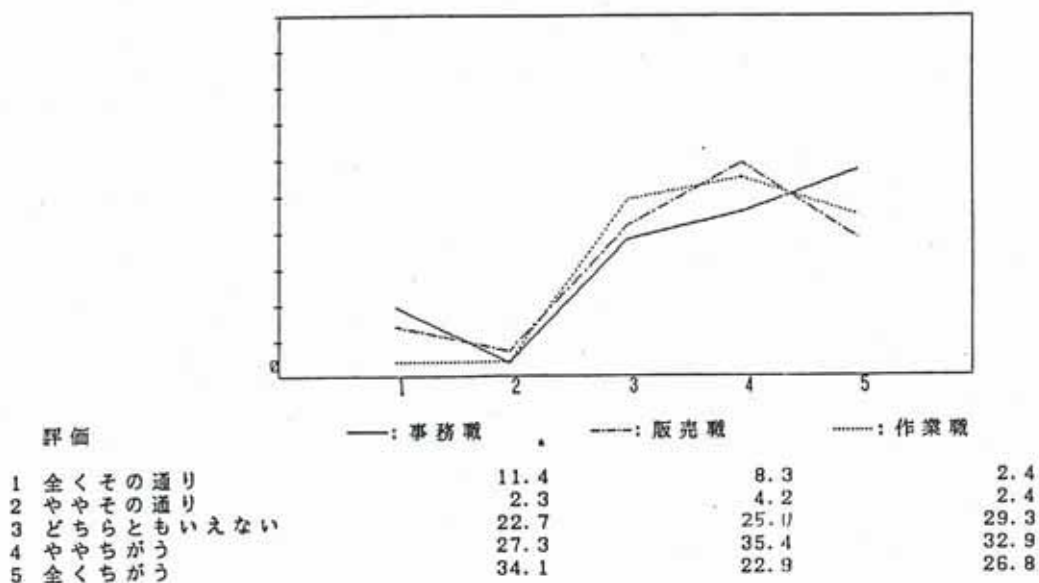
となり、「自由」の内容は自分の意思一つで全く自由に時間を使うということではない。むしろ(図-4-2) からいえば、働く時間は決っていた方がよいという気配がうかがえる。

職種別には、販売職が一番フルタイム勤務を望まず、ついで事務職。作業職は、フルタイム志向がかなり強い。

(図-4-1) 1日中しぼられる仕事より、都合のよい一定の時間働く仕事をしたい



(図-4-2) たとえ働く時間が少なくても、決められた時間働く仕事は好きではない



5. 仲間がいて楽しい仕事を。

当然といえば全く当然であるが、下表に見られる通り、「仕事は、時間と収入の条件が第一で、生き甲斐は余り関係がない」という意見に賛成する人は極めて少ない。

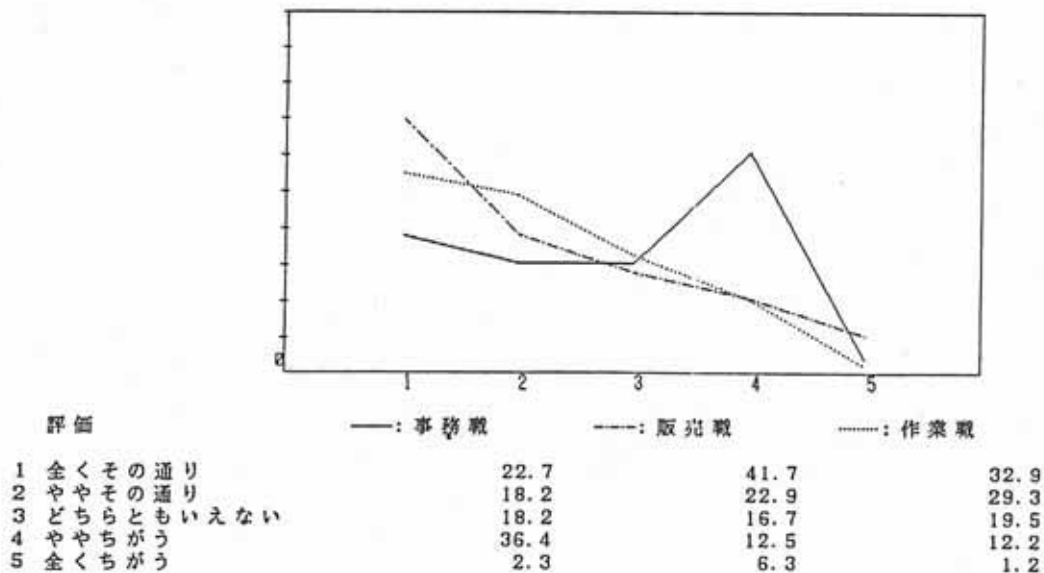
(%)

	全くその通り	ややその通り	どちらともいえない	ややちがう	全くちがう	N. A	合計
事務職	4.5	6.8	20.5	38.6	27.3	2.3	100.0
販売職	8.3	2.1	25.0	37.5	25.0	2.1	100.0
作業職	3.7	9.8	34.1	32.9	15.9	3.7	100.0

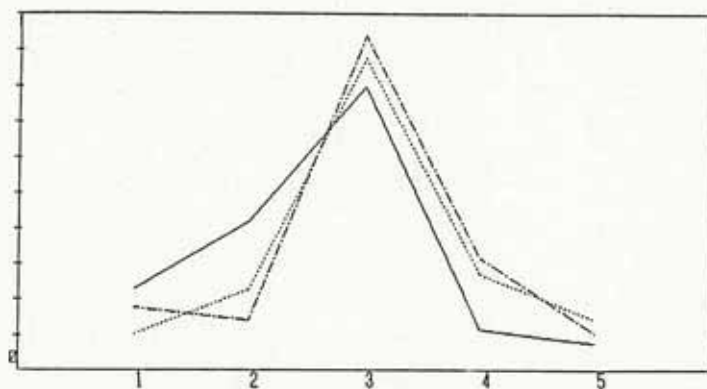
一方、ズバリ「仕事における生き甲斐」とはいえないけれど、「仕事の内容がどうであれ、仲間がいて楽しい仕事がいい」という意見と「人に使われるより、自分の裁量で結果が決まる仕事が好ましい」という意見に対する賛否を問うと、(図-5-1)及び(図-5-2)となる。各職種共、全体的には「仲間がいて楽しい仕事志向」であり、「裁量権のある仕事」については半数の人が「どちらともいえない」といって、いわゆる人をリードして仕事を進める点に生き甲斐を求めているわけではない。

(図-3-1)で、能力発揮志向は事務職が一番強かったが、上表でも仕事における生き甲斐を一番求めているし、(図-5-1)では弱いながらも否定派がかなりおり、(図-5-2)でも裁量権のある仕事への志向が一番強い。また、(図-1-2)において、「お金があっても働く」という意欲の強いのも事務職であったわけで、販売職や作業職に較べると仕事への意欲が強いといえる。しかし、次項で見るように、販売職に較べると「仕事とはいえ、人に頭を下げるのはいや」だし、「販売の仕事が楽しいとは思わない」傾向があって、仕事への意欲が気位の高さと表裏になっている面がうかがえる。

(図-5-1) 仕事の内容がどうあれ、仲間がいて楽しい仕事がいい



(図-5-2) 人に使われるより、自分の裁量で結果が決まる仕事が好ましい



評価

——: 事務職

----: 販売職

.....: 作業職

- 1 全くその通り
2 ややその通り
3 どちらともいえない
4 ややちがう
5 全くちがう

13.6

10.4

6.1

25.0

8.3

13.4

47.7

56.3

52.4

6.8

18.8

15.9

4.5

6.3

8.5

6. やはり、今の自分の仕事が一番良い。

(図-2-1) で全体的には収入が多くても対人折衝があるような仕事は余り望まない傾向が見られたが、「内勤か外勤か」、「人に頭を下げるのに抵抗があるかないか」、「販売の仕事を楽しいと思うか」について見てみよう。

まず、「内勤か外勤か」については、調査対象者全員が内勤者であることもあって、下表のように内勤志向が強い。

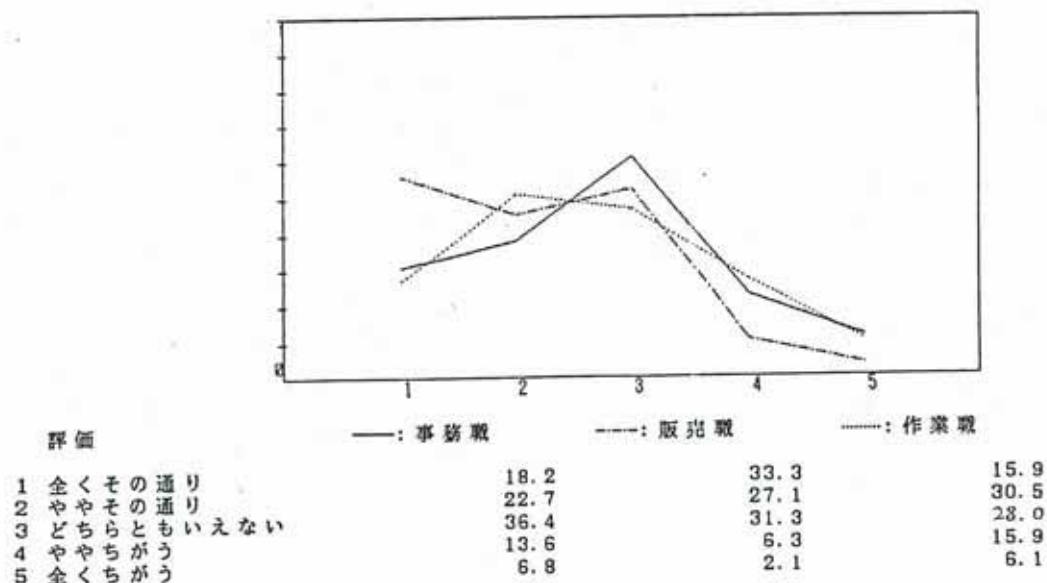
(%)

	外勤志向	どちらとも いえない + N.A	内勤志向
事務職	6.8	34.1	59.1
販売職	6.3	27.1	66.7
作業職	9.7	34.1	56.1

人に頭を下げること(図-6-1)、販売の仕事の楽しさ(図-6-2)、については、さすが販売職という結果が出た。事務職及び作業職の見た販売職の仕事は、40%以上の人「どちらともいえない」と答えていて、評価がつかかっているのであるが、30%近い人は「楽しいと思わない」と述べている。

販売職を含めて、現在の自分の肯定でもあるのだが、マスターしている仕事は楽しいし、他の職種の人が抵抗を感じたとしても、自分には抵抗感がないし、誇りを持っているといえる。

(図-6-1) 仕事であれば人に頭を下げるのに、さほど抵抗を感じない



(図-6-2) 販売の仕事はつらいことがあっても、結果がはっきりするので楽しい

